

最新の技術動向と知見を共有



日本測量協会(清水英範会長)は13、14の両日、東京都文京区の東京大学伊藤国際学術研究センターをメイン会場に、「測量・地理空間情報イノベーション大会2023」を開いている。「集い再び」のサブタイトルの下、4年ぶりの対面開催となる。全国9支部のサテライト会場を結んで測量・地理空間情報分野の最新の技術動向や、3Dデー

日測協 測量・地理空間情報イノベーション大会

タの活用などを展望し、知見を共有する。東京会場には350人が参集。全国では延べ1300人が参加する。スペースシャリストの会とジオメトリストの会が共催する。

13日の開会に当たり、清水会長は「近年、防災・減災、国土強靱化や工業工事の品質確保、デジタルツイン、i-Construc-

tionや建設DXが社会的にすっかり認識され、それに伴い測量・地理空間情報への期待やニーズがますます大きくなってきている」とする一方、「多忙で勉強する時間も他者と交流し懇親する場のない人が増えている気がする。この大会は自信を持って総力を挙げて提供する勉強と交流、懇親の場であり、有効に使う場にしてほしい」と呼び掛けた。写真。

この日は、バスコ、国際航業、アジア航測、朝日航洋の大手測量4社がDX(デジタルトラン

スフォーメーション)の取り組み事例を紹介したほか、国土地理院の大木章一参事官が「地理空間情報に関する国際動向」と題して特別講演した。ジオメトリスト会によるパネルディスカッション「三次元計測コンサルティング」への道々レベル4飛行によるこれからのUAV計測もあつた。

14日は、東北、東京、関西、九州の各会場をつないでUAV(無人航空機)活用状況と課題などを論じるほか、測量・地理空間情報女性の技術力向上委員会「働き続けるために」、スペシャリストの会の「3Dデータの活用と未来像」とそれぞれ題したパネルディスカッションが開かれる。

東京会場のプログラムは、協会支部のサテライト会場にも同時配信。特設サイトでは同日から30日まで対面での6講演を含め、合計10講演をオンデマンド配信する。